

椋山女学園大学 障害者支援サークル

YELLTECH

目的

筋萎縮性など発話が困難な障害児を対象に、視線入力などの最新技術を用いて、他者とのコミュニケーションを支援することが目的です。他者との繋がりをきっかけに、生き甲斐をもって、社会参加できるようになることを期待しています。サークル名である YELLTECH は、応援するという意味の“YELL”と、技術を活用するという意味の“TECH”を組み合わせた造語です。

メンバー

- 向直人（椋山女学園大学 文化情報学部 准教授）【顧問】
- 中島豊四郎（椋山女学園大学 名誉教授）【技術アドバイザー】
- 佐藤仙務（株式会社仙拓 代表取締役社長）【支援アドバイザー】
- 椋山女学園大学・学生 6人

活動概要（平成29年度）

平成29年8月 椋山女学園大学にて二人の障害児を対象に視線入力の体験サポート

平成29年9月 椋山女学園大学の学生を対象とした視線入力装置の勉強会を実施

平成29年11月 名古屋市立大学病院のスタッフを対象とした視線入力のデモンストレーション

平成29年12月 大府あおぞら有床クリニックでパーキンソン病患者を対象とした視線入力のデモ

平成30年1月 港特別支援学校の生徒を対象とした視線入力のデモンストレーション（予定）



障害児の体験会



佐藤氏による指導



病院スタッフの体験会

開発ソフトウェア

障害児のクリスマスプレゼントとして、視線入力装置（EyeTracker）を利用した右図のクイズ・ゲームを開発しました。画面奥から手前に向かって移動するクイズの選択肢を、制限時間以内に視線で選択する仕組みになっています。視線入力による文字入力のトレーニングとしても利用します（東邦ガス・ガスエネ館のイベントでも展示）。

